



鹿児島県護憲平和 フォーラム情報



NO-169 2024.10・1

発行：鹿児島県護憲平和フォーラム Email:kenheiwa@bronze.ocn.ne.jp
連絡先：鹿児島市鴨池新町5-7 TEL 099-252-8585 FAX099-258-4560

責任ある主権者として

代表 下馬場学

立憲民主党での野田佳彦代表選出に続いて、自由民主党では石破茂総裁が選出された。それぞれが選挙中に訴えたことをどう具体化していくのか、注視していかなければならぬ。「誰が総裁になつても自民党」の福島瑞穂社民党党首の言葉は、総裁選挙期間中「裏金・統一教会」問題に触れようとしない自民党の体質とそれを許している日本の政治の状況を言い当てて意味が深い。「まつとうな政治」を作っていくことは政治家だけでなくわたしたち主権者の責任でもある。

西之表市馬毛島の自衛隊基地整備の工期が3年遅れの2030年3月末に延長された。長期化の新たな工程の説明は市長にとどまり、市議会や市民の説明は全くない。防衛省が再三強調してきた「地元の理解」はどこにいったのか。今種子島では、市民生活が混乱状態にある。交通量が増加し事故の危険性が高まり、病院で待ち時間が長くなり、家賃の高騰で児童・生徒が転校を余儀なくさせられたという教育現場の報告もある。漁業・農業から基地建設関係への転職増加の中の工期延長は、工事終了後の種子島の

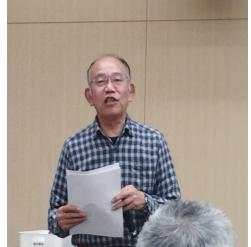
「生業」の在り方が危惧される。東京電力福島原発事故後の集会で、ある漁師が「俺たちは魚を獲つてなんぼの漁師だ」と訴えたことを思い出す。みんな自らの生業に誇

りを持っている。補償金・交付金では幸福な生活は得られない。

東京電力柏崎刈羽原発から使用済み燃料が青森県の中間貯蔵施設に搬入された。刈羽原発を再稼働するための処置である。今後中間貯蔵施設で50年間保存し、再処理・最終処分の過程を経て10万年地下で保存される計画だが、再処理工場は27回目の稼働延長、最終処分場は候補地さえ決まっていない。こうした中での、川内原発が20年稼働延長に入り、GX法により政府は60年延長も企図している。政府のこの無計画・無責任をわたしたち主権者が正していかなければならない。

袴田事件裁判で静岡地裁は袴田さんの無罪を言い渡した。事件発生・逮捕から実に58年を経た無罪判決だ。味噌タンクからの衣類の発見など捏造は明らかだった。心から喜びたいが、袴田さんの「失った58年」は戻ってこない。袴田姉弟の闘いそして支援してこられた方々に敬意を表す。大崎事件でも後に継ぎたい。

「わたしたちが一步譲ると権力は二歩踏み込んでくる」が、今度はこちらが二歩も三歩も踏み込んでいこう！政治の闘いも目の前だ。団結と連帯で！

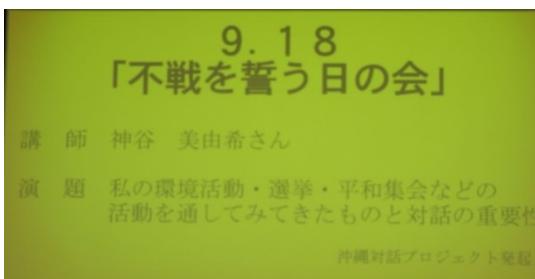


9・18不戦を誓う日の集会

毎年、柳条湖事件の発端となった9月18日に護憲平和フォーラムは不戦を誓う日の集会として、講演会などを開催しています。

今回は、沖縄から「対話プロジェクト発起人」の『神谷 美由希』さんをお招きして、18時より鹿児島市国際交流センターにて、

「私の環境活動、選挙、平和集会などの活動を通して見てきたものと対話の重要性」と題しての講演を約1時間お受けし、その後多くの参加者との質疑を受けました。



冒頭、県護憲の下馬場学共同代表から開会あいさつを受けました。代表は、『8・15の講演会に引き続きの開催となります。関東軍が自作自演で独走し対中国侵略戦争の発端となった「9・18」も平和を守り戦争に反対する私たちとして譲れない取り組みでありご理解をいただきたい』と集会の意義を強調しました。

講師の神谷さんは30歳代前半とこれまでにない若い講師で、自らが沖縄で活動した具体的な事実（オール沖縄での活動、環境を守る活動、平和集会の活動）をもとに、相手の立場になっての対話が重要であり、戦争の対語は「対話」であるとし、台湾や中国、韓国での対話プロジェクトの活動をとおしてつかんだり感じたりしたことを素直で判りやすく話してくださいました。

質疑では、「講師がこのような活動を始めたきっかけは?」「若者の政治参加の重要性と手立ては如何?」「SNS発信の重要性」「台湾有事とは半導体有事である、との認識が必要」などの意見が出され、講師は「人との出会いが大事であり」「SNSなどの発信を通して連帯活動は可能では」

「相手を知ることから誤解も解け、戦争の危機を回避できることもあるのではないか」と述べられました。



平日の夕方からの講演会でしたが、81名の方に参加いただきました。

奄美大島の土砂を、沖縄辺野古・大浦湾埋め立てに使用するな！
さつま町への「弾薬庫建設反対」！自衛隊施設誘致撤回を求める！
民間空港・港湾施設を軍事利用化する「特定候補地」指定を認めるな！

県護憲フォーラムと県民連合所属議員で 県知事へ申し入れ

鹿児島県護憲平和フォーラムと県民連合所属議員で、9月3日（火）15時から標記内容について、県知事への要請行動を行いました。

当日は奄美ブロックの関誠之代表も参加し、奄美大島の土砂を沖縄県民の反対の声が強い「辺野古・大浦湾埋め立て」に決して使わないでと強く訴えました。

また、敵基地攻撃能力の保持を意図した弾薬庫の建設は、相手国からの攻撃の直接目標にされる危険性があまりにも大きいことや、町民の多くが事の仔細を知らない中で要望がされ、受け入れ準備が進められていることに警鐘を鳴らし、県知事として撤回を求めるよう要請しました。

更に、県知事の権限である民間空港・港湾の施設整備や利用を国に移譲する今回の指定の許可は、自衛隊のみならず米軍も自由に（有事のみならず平時も）使用できることから知事の対応の撤回を求めました。

今後とも粘り強く反対の取り組みを強化していくこととします。



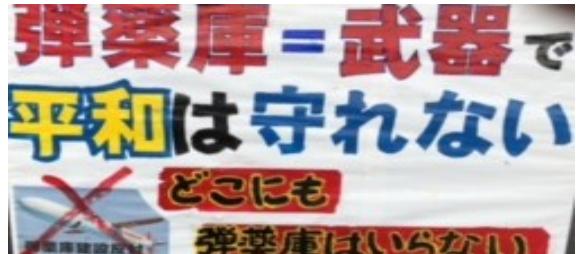
第 40 回反核・平和の灯りレー

猛暑の中、今年も「語り継ごう、走り継ごう、広島・長崎・沖縄の心を！」をスローガンに、核兵器廃絶、戦争反対、平和を願い、県民へアピールしながらトーチリレーし、県下各市町村の自治体へ要請書申し入れ行動を、実行委員会（青年部・女性部）を中心に行いました。7月 18 日の出水地区を皮切りに、県内各地区を一巡し、8月 9 日の奄美大島での行動まで走り抜きました。広島原爆投下の8月 6 日には、鹿児島市内を走りました。その際には、労働者福祉会館での激励集会で、県護憲平和フォーラムからも連帯のあいさつを行いました。



弾薬庫整備反対でさつま町に要望

9月 18 日、北薩ブロック平和運動センターでは、「さつま町弾薬庫建設に反対し自衛隊施設誘致の撤回を求める要求書」を町長（角副町長）と町議会議長（古田町議会防衛施設等調査特別委員会委員長）へ手渡し、要請行動を行いました。午前 10 時から約 1 時間にわたって、参加者一人一人がその危険性や不安を持つ住民の声に真摯に耳を傾けるべきだと訴えました。周辺自治体への影響も含め、住民への説明も不十分な状況を指摘しながら、町民の「安心・安全」な生活を守るためにも、この間町長が直接応じようとしている姿勢も批判をしながら一度立ち止まって弾薬庫建設の問題を考えることを強く要求しました。



現在、町内の住民で組織されている「弾薬庫問題を考える会」が中心となって、毎月一回町内各所で場所を変えながらスタンディング行動をとりくんでいます（9月で 6 回目）。また 9 月 28 日には、北薩ブロック平和運動センター主催で約 40 名の参加で学習会を開催しました。北薩ブロック平和運動センターは、「考える会」と連携し弾薬庫建設をストップさせるために今後もとりくみを強化していきます。県下の仲間とも一緒に反対運動を大きくしていこうと考えます。

ベトナムアンサンブルチャリティーコンサートのご案内

来る 10 月 12 日（土）午後 2 時から「志布志市文化会館」にて、ベトナムアンサンブルチャリティーコンサートが開催されます。鹿児島県護憲平和フォーラムも協賛しています。大人 2,000 円 小中高生 500 円 お問い合わせ 090-8762-3104（武田）